

[ここに入力]

カメルーン通信



No.3 2018年度1次隊 小学校教育 とびたりか 飛田梨圭

●任地での生活

今回はこの国での生活について紹介したいと思います。

アフリカの家というときまずイメージするのは、土壁で屋根が藁や葉っぱで作られていると思う人もいるのではないですか？もちろん場所によってそのような家に暮らしている人もいます。写真は任地から約1時間離れたバントウムという村に住むボロロ族という人たちの家です。昔ながらの伝統的な家で暮らしをしている人たちが今もなおカメルーンという国にはいます。一方で都会的な暮らしをしている人たちもいます。小学校教育といった教育関係で派遣されている隊員のほとんどは比較的発展した村、町に行くことが多いので、写真に載せたような家で暮らしている人はいません。大抵アパートを借り



ボロロ族の家



私が暮らしているアパート

ています。かく言う私もアパートで暮らしています。しょっちゅう停電、断水にはなりますがそれ以外は日本での普通のアパート暮らしと変わりません。冷蔵庫、ガスコンロ、トイレ、シャワーとあります。ただ、次のページにあるトイレの写真を見てください。何か気付くことがありますか？……。この国に来て驚いたのが大抵のトイレには便座がないんです(笑)便座だけでも売っているそうなのですが、面倒なので便座なしの生活をしています。掃除も楽ですね。日本のように冬がないので便座が冷たくて座るのも嫌！という状況が起こらないのでそのままです。むしろ乾季の時期は外が暑いのでひんやりとした便座が気持

[ここに入力]



便座のないトイレ

ちいいくらいです。停電したときはひたすら復活するまで我慢しています。計画停電らしいのですが…そのような日はキャンドルナイトと洒落こみます。長くても2日で復活します。ただ、乾季の時期の断水は長く2週間水が出ない時もありました。そのようなときは近くの井戸まで水を汲みに行くのですが…それすら枯れてしまうとあとは我慢、我慢です。汗をかかないように工夫したり、もったいないですが飲み水で体をふいたりしました。水道設備がきちんと整っていないので安定供給はこの国ではまだまだ難しいようです。あれば使えますが、なかったら遠くの井戸まで水を汲みに行くのが一般的です。ここで暮らしている人は割り切って生活しています。不便な生活を強いられることもあります、この国

に来てよかったのは幸せのレベルが日本と比べて下がったことでしょうか。2週間明けの水が出たときの喜びは格別でした。こんなに水が出るのがありがたいと思えるのはアフリカに来ないとわからないことだったなと実感しました。なぜボランティア活動として井戸作りを支援するのか本当の意味で分かった気がします。命の水とはよく言ったものです。水が出ないという状況は何もかもやる気をなくさせます。逆にいつ止まるかわからない状況が常にあるので、今できることはすぐ行動に移すようになりました。特に洗濯は水をたくさん使いますからね(笑)。断水の時はできません。明日したらいいかなあという予定を立ててもその予定通りにいくかどうかはわかりません。その癖がついてきたせいかな今では洗濯に限らず今できることは何でもすぐに行くようになりました。だらだら何かをしているとすぐに時間は過ぎてしまいましからね。ここでの生活の知恵かもしれせん。

それでは、また次回 ^{オウルボワー} Au revoir! (訳さようなら!)

<おまけ>

某ホラー映画に出てきそうな井戸が家の近くにあります。写真左に紐があると思いますが、その先にバケツが括り付けられていて、そのバケツを手繰り寄せて水を汲みます。深さは10m弱。落ちて自力で這い上がれそうです(笑)

